

平成20年9月  
ネットワーク全労生

## ユニオン・カレッジ ～労働運動についての研鑽の場～

日本サービス・流通労働組合連合  
政策局 福島葉子  
(2007年度ユニオン・カレッジ参加者)

昨年、産別に着任して間もなく全労生の「ユニオン・カレッジ」を受講させていただきました。その頃、長年にわたり単組の組合役員として経験を積んできた自負はありましたが、それを産別で活かすためにもう一段ステップが欲しい、とちょうど思っていたところでした。

ユニオン・カレッジでは、労働運動における大先輩の方々をはじめ、労働・経済・法律の研究者の方々、今まさに産別活動を推進されている方など、さまざまな方面から講師を迎え、歴史や法律などの側面から運動理論への理解を深めるとともに、経営対策、労使関係、組織内コミュニケーションといった切り口から運動の実践的な進め方についても学びました。受講を通じて私の中でこれまでの経験が改めて意味づけられ、産別での新たな役割を自分なりに自信を持ってイメージできるようになりました。

ユニオン・カレッジは講義の内容はもちろん、参加者同士の交流も大きな魅力の一つだと感じました。各組織から派遣された受講生の皆さんはたいへん参加意識が高く、講義の後の質疑応答でも多くの方が活発に発言されるので、「私も受け身じゃダメだ……」と焦りを覚えたものでした。グループでの討議や作業においても、みな話すのも聴くのも上手な方ばかり。懇親会で日頃の組合活動への思いを熱く語りあったことも楽しく思い出されます。ユニオン・カレッジは、事務局の方も含めて人的ネットワークを広げるいい機会であり、私にとって日々の活動にいそしむ上での励みになっています。

ユニオン・カレッジは夕方開催なので比較的時間の都合が付きやすい一方、仕事を終えてからさらに2時間、集中力を持続しなくてはならないという厳しさがあります。ただ私の場合は、受講前にはたどりつくのがやっとの気力しかなくても、講師の先生や受講生の方々のおかげで帰る頃には元気を回復することもしばしばありました。労働運動に携わる人々の研鑽の場として、また心身のリフレッシュの機会として、ユニオン・カレッジには価値があると私は思います。

ユニオン・カレッジとは

全労生として、基本概念を不変としつつも、新たな時代変化に適応した労働運動と健全なる産業・企業の発展を目指し、次世代ユニオンリーダーの育成に資すべく、2000年から毎年開催しているものである。